

予報期間 9月17日から9月23日まで

◆今期間のポイント

＜主要しょう乱の概要＞

- 熱帯低気圧については、最新の台風予報を参照。
- 19日は、高気圧が日本のはるか東へ移動し、気圧の谷が日本海にのびる。
- 20日は、前線が日本の東から北日本付近にのびる。
- 21日から22日は、低気圧が千島近海を北東進し、前線が日本の東から北日本にのびる。高気圧が沿海州付近に停滞する。
- 23日は、日本の東に気圧の尾根がのびる。

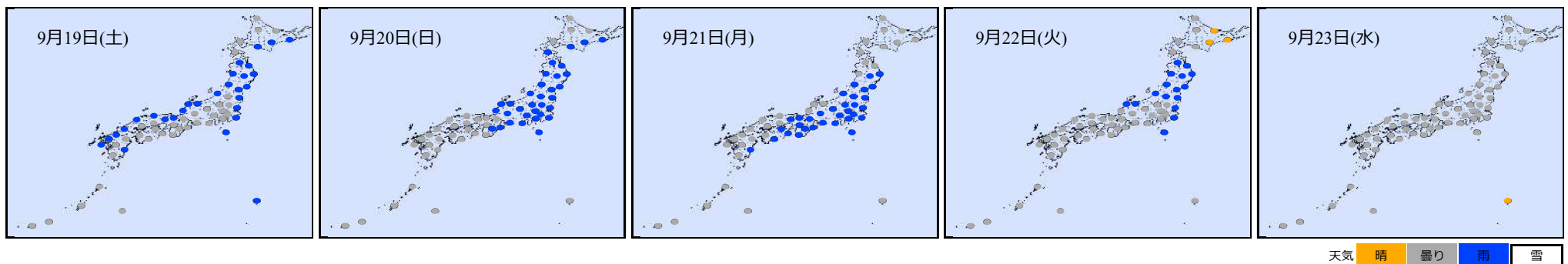
＜防災事項＞ 11時、17時発表の早期注意情報に合わせて当項目は修正する場合があります。

- 20日にかけて、小笠原諸島では大しけとなり、熱帯低気圧の発達程度等によっては、大荒れとなるおそれがある。
- 19日から21日頃にかけて、伊豆諸島では荒れた天気となり、熱帯低気圧の発達程度等によっては、大荒れや大しけ警報級の大雨となるおそれがある。
- 21日頃は、東日本太平洋側では荒れた天気となり、熱帯低気圧の発達程度等によっては、大荒れや大しけ警報級の大雨となるおそれがある。

※最新の早期注意情報、気象情報、台風予報も参照ください。

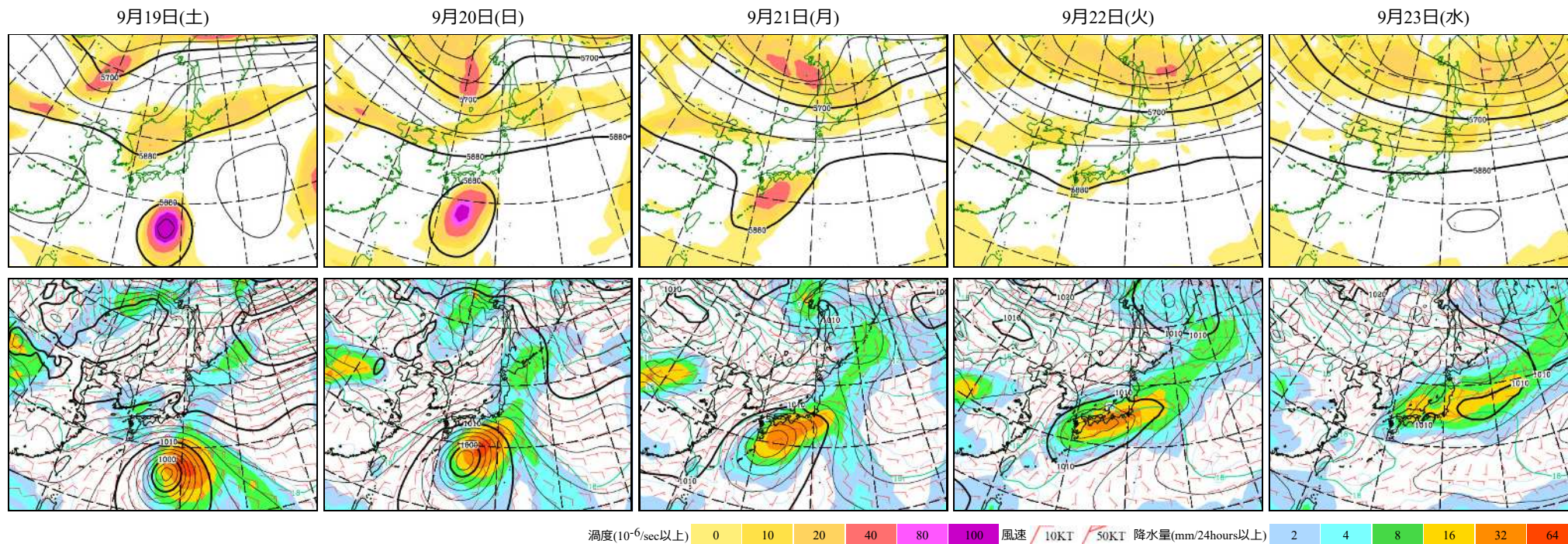
以下の資料は、気象事業者等が、気象庁の提供する週間天気予報の根拠を理解するための補助資料であり、そのままの形式で一般に提供することを想定して作成したものではありません。

◆10時時点の3～7日目の天気予報案（11時以降は気象庁HP等にて発表予報をご利用ください。）

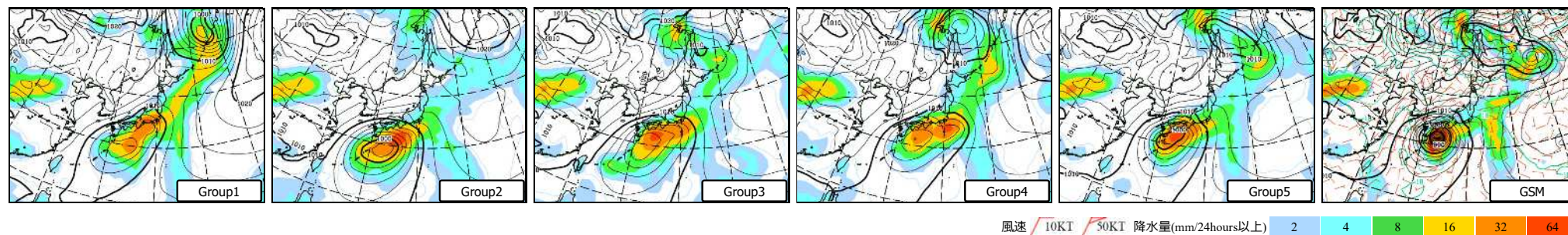


- 北海道地方は、曇りや雨の降る日が多いが、22日は晴れる所がある。
- 東北地方と東日本、西日本は、曇りや雨の降る日が多い。
- 沖縄・奄美は、雲が広がりやすい。

◆アンサンブル(ENS)平均予想図 上図：500hPa高度線、渦度 下図：海面気圧、地上風、前24時間降水量(21時)



◆9月21日のENSクラスター平均(グループ1～5)とGSMの地上予想図 海面気圧、地上風(GSMのみ)、前24時間降水量(21時)



◆昨日資料からの変化と予想のばらつき

- 最新のアンサンブル資料(ENS)は、19日は、朝鮮半島付近の高気圧が強くなった。21日から22日にかけて、サハリン付近からオホーツク海に進む低気圧が強くなった。
- 熱帯じょう乱の位置の予想は、20日までは各モデルそろっているが、21日以降モデル間の差がある。
- 降水確率ガイダンスの値は、21日から22日にかけて、東日本を中心に東北地方や西日本でも大きくなった。
- スプレッドは期間を通して低くなっており、特定高度線のばらつきも小さい。

◆ENSからの修正点とサブシナリオ等の補足事項

- 予報は、おおむね最新のENSを基に考えるが、期間後半の熱帯じょう乱の位置については海外モデルも参考にする。

今日から明後日までの解説は「短期予報解説資料」を参照ください。